

鉄筋結束やドローン

建設未来協

内原中で体験学習



小沼県検査指導課
課長補佐



櫻井会長



折本校長

県建設業協会建設未来協議会は21日、水戸市立内原中学校で建設体験学習を開催した。全3回のうち1日目の今回は、2年生約50人が参加。木造倉庫の基礎工事や測量を体験し、ドローンを操縦したり、重機に試

乗したりした。コマツ茨城、NTJオテックス北関東、ドローン産業が協力。開会式では県土木部検査指導課の小沼志乃武課長補佐が「建設の仕事は皆さんの生活の役に立てて、災害の時には人の命を守るとい

う非常にやりがいのある仕事。何より形に残るものづくりができる楽しい仕事。今日は建設の仕事に触れて、ものづくりの楽しさを感じて、将来の職業の選択肢の一つにし、多くの人に建設の道に進んでもらえたい

らうれしい」とあいさつ。建設未来協議会の櫻井俊一会長が「学校や道路、皆さんが暮らしている家、お風呂、トイレなど建設業は多岐にわたって携わっている。今日はその一部だが、体験し、理解していただけたら」と話した。

同校の折本正巳校長は「めったにできない経験。ものをつくる喜び、木のぬくもりなど、いろいろなことを感じてほしい。そして皆さんの未来につなげてほしい。すばらしい体験となることを祈っている」と語った。

その後、4班に分かれ、木造倉庫の基礎工事（鉄筋結束）、トータルステーションによる距離測定、ホイールローダー試乗、ドローン操縦を行った。

鉄筋結束をした女子生徒は「回すのが難しかったけど、楽しかった」と話し、初めてドローンを操縦した男子生徒は「コントローラーでカメラ映像が見れるのが面白いと喜んでいました。

第2回は11月11日に木造倉庫の組み立て工事などを行う。完成引渡式は12月18日を予定している。



鉄筋の結束を体験した



ドローンで記念撮影